

平成 27 年度 飯山市公民館の基本方針（案）

飯山市公民館

1. 伝統ある長野県公民館活動を継承すべく…

昭和 21 年 10 月、全国に先駆けて、妻籠公民館（現 木曾郡南木曾町）が設置されました。これは、昭和 21 年 7 月、文部省の公民教育課長であった寺中作雄の発意に基づいて、各県知事に出された「公民館の設置・運営について」と題する文部次官通牒を受けてなされたものでした。全国初の妻籠公民館設置には、この次官通牒の発せられるより前から長野県には公民館構想に通ずる、青年団などによる自主的な文化・学習活動の存在が背景にありました。そして、この次官通牒は「寺中構想」と呼ばれ、津々浦々に浸透していきました。

1-1 「寺中構想」を率先垂範した長野県の公民館活動

寺中は、太平洋戦争で荒廃した国土と人心を復興しようと「…文化が生活に浸透し、教育が社会と連携し、政治が国民と直結し産業が郷土に根を張る様な活々として美しい民主国家、平和国家が建設されることをただ一場の夢としないため…国会議事堂が全国町村に分散せられて然るべき…」このイメージを持った公民館を、知恵と情熱をもって設置し、育てよ、と説いています。

長野県民は、上述のような自主的な文化・学習活動を背景に寺中の思いを率先垂範、実践し発展させてきました。

2. 飯山らしい公民館活動

飯山市においても先人たちが寺中構想の意を汲み、自主的な伝統を築いてきました。

飯山市公民館の特色の一つは、地区公民館の自治的活動が活発である、ということです。地区公民館は主として地区民の拠出金に依って運営され、主たる活動は地区公民館独自に企画・実施されています。これは、伝統ある長野県公民館活動の中で、画期的な運営形態であり、我々の誇りとすることができます。

2-1 新たな公民館活動出発の年に

平成 27 年 3 月 14 日、念願の新幹線開業が実現します。これまでは、活動の大きな柱として、新幹線開業に向けた取組みがなされてきました。

新年度は、新幹線開業後の地域振興を大きな柱に据え、新たな公民館活動出発の年とします。

そこで大切なことは次の四点です。

- ① 子どもも大人も夢を描いて生きる暮らし
- ② 自然、歴史、伝統文化などの学びに裏付けられた地域の誇り
- ③ 飯山市の素晴らしさを内外に発信
- ④ お客様への飯山らしいおもてなし

3. 自由な発想で地域振興を

飯山市は、過疎と少子化で人口は半減しています。しかし、豊かな自然、心温もる人々の暮らしや、これまで培われてきた伝統文化、寺社、史跡など、誇ることのできる貴重な宝物はいっぱいあります。

それらを活かして、自由な発想で飯山の活性化を図ります。

1) 協働と助け合いで地域課題に取り組み、心温もるコミュニティ・絆を育みましょう。

2) 学びの習慣を醸成しましょう。

学びから誇りが芽生えます。図書館を利活用し、読書の普及に取り組みましょう。

3) 知られざるは無に等しい…飯山の素晴らしさを発信しましょう。

学びを通して得られた飯山の宝物を人々に知ってもらい、飯山を訪れてもらうよう、皆んなで知恵を出し合ひ しましょう。

4) 都会との交流人口を増やしましょう。

飯山を楽しみたい人々や、飯山の暮らしや歴史・文化を調査・研究したい人々との交流を図りましょう。親子で、あるいは、じいちゃん・ばあちゃん、皆んなで都会の人々と交流できる場を創りましょう。

5) 地域振興で郷土への誇りと愛着を育みましょう

地域振興を通して、子どもにも大人にも飯山への愛着と誇りを抱いていただきましょう。

皆んなで、知恵を出し合って、楽しい飯山、活気ある飯山をつくる活動を進めましょう。